

▼【取り組み紹介】課題を知る

まずは現状を知ることから

ボランティアやNPO、地域組織、行政ほか、もちろん程度の差はありますが、私たちは日常の中で、社会の課題に出会うことがあります。ただ「自分には関係ない」と思って素通りすることも多いのが現状です。しかし一方で、その課題は誰かが解決する必要があり、また解決に向けて行動する人が存在します。

まずはどのような課題も、解決するには「現状を知ること」から第一歩が始まります。

そこで今回は、課題解決に向けた様々な動きの中から、LGBT・SOGIEに関する活動について、NPO法人 Rainbow Soup 代表の五十嵐ゆりさん（右写真）にお話を伺いました。



【事例】NPO法人 Rainbow Soup の取り組み 多様な人がいて当たり前前の社会へ



LGBT 当事者にとっての困難は、LGBT 当事者がいないことが前提に作られた制度や価値観の中で生活していることにあるそうです。

さまざまな調査によると、日本で 20 人に 1 人が LGBT 当事者。みなさんの周りにも、周囲に伝えていないだけで LGBT 当事者はいます。「言ってくれば」と思うかもしれませんが、無理解や偏見が多い社会で、カミングアウトすることは想像以上に困難なのだと言われました。しかし、各種相談窓口やサービス窓口の仕組みの現状は「申し出があれば支援を受けられる」というものが多く、諦めるしかない人がたくさんいるのだそうです。

車いす対応バスが今では当たり前になったように、当事者の存在を知り困難が分かることで、初めて社会側のバリアがなくなります。今は自分たちが前に出て存在を知らせる必要がある、と社会の変化への期待を込めて語られました。

6色のレインボーマークが性の多様性を象徴するシンボル▲



▲活動で出会った協力者のみなさんと三周年記念

LGBT とは、同性愛者や両性愛者、身体の性と自認する性が異なる人などの、性的マイノリティ（性的少数者）の総称の一つです。近年では、「性的指向」「性自認」「性的特徴」「ジェンダー表現」の組み合わせで性を捉える SOGIE という用語もよく使われます。それぞれの要素にマイノリティがいて、要素の組み合わせは人それぞれ違うという考え方は、

社会の課題に気づくには？

五十嵐さんは「多様な人が存在することを知り、存在することが当たり前だと思うことが大切です」とおっしゃいました。知ることで気づきが増えると、自身の発言や行動に変化が訪れるでしょう。

【団体紹介】NPO法人 Rainbow Soup

福岡県、特に福岡市を中心に、LGBT や SOGIE に関する啓発活動の他、行政・学校・企業・町内会等から依頼を受け講演活動も行っています。LGBT 当事者や、個人・企業等の理解者が一緒に活動しています。(https://rainbowsoup.net/)

▼団体活動情報

☰ 《NPO 法人志免地域 支え合い互助基金》



▲講演会の様子

※互助活動とは（団体パンフレットより）

家族・友人・クラブ活動仲間など、個人的な関係性を持つ人間同士が助け合い、それぞれが抱える生活課題をお互いが解決し合う力、その活動のことを指します。

現在、11 のボランティア団体が所属して活動しています。

活動は 20 年以上続いており、高齢化によるメンバーの減少はありますが、毎年の講座等で丁寧に声を掛けて、新たなメンバーが加入しています。「それぞれの団体の活動内容は様々ですが、活動者同士のつながりを大切に、高齢者や障害のある方との関わりを楽しんでいます。」とのことでした。

▶「ハートフルコーナー in しめ」は障がい者福祉の啓発を目的に、障がい者が作った物品の販売をしています。主に第 4 日曜日 10 時～15 時、シーメイト 1 階で開催中ですがお手伝いいただけるボランティアも大募集中です。

【取材から見たこと】

上記 2 団体の取り組みから感じたのは「ネットワークの重要性」です。様々な場面で使われるネットワークという言葉は、ネット（つながり）とワーク（はたらき）に分かれています。

ネットワークづくりの際に注意したいのは、お互いにつながるだけの「ネット」状態で止まってしまふことです。できたつながりが機能することで、初めて「ネットワーク」となるのです。

互助活動（※）に取り組む団体を支援する仕組みを確立し、最後まで安心して過ごせるまちづくりに貢献することを目的として、平成 30 年 6 月に設立しました。

「困っている人を放っておけない」という想いはあっても、まだ活動に結びついていない人たちがいます。その人たちが活動を始める前後で課題となるのが、資金と人材の確保です。この部分を下支えすることで、活動が広がり継続していけば、互助の力が高まり、地域で支え合うことができます。

現在は事業の説明や目指す基金のあり方・基金の存在を正しく伝える広報活動に力を入れており、平成 31 年 2 月頃の互助活動助成事業募集開始を目指して、運営委員会を毎月開催しています、とのことでした。

☰ 《志免町ボランティア 連絡協議会》



ネットワークづくりは、「ワーク」に至るつながりをどうつくるか、が鍵となります。
～ネットワークづくりの 2 つのポイント～

- ① つながる量よりも、質の高いつながりを重視する
- ② まずは自身のメリットよりも、つながる相手のメリットを先に考える

上記 2 点を軸にしながら、自身の目的や意図と、相手のニーズやねらいをつなげていくと、機能するネットワークが少しずつできていきます。